

事後評価報告書(日中研究交流)

1. 研究課題名:「風の影響を受けやすい社会基盤の風災害リスク低減戦略」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者:学校法人 東京工芸大学工学部建築学科 教授 田村 幸雄

2-2. 中国側研究代表者:同済大学 土木工程学院 橋梁工学科 教授 Yao-Jun Ge

3. 総合評価: S

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

日本側から創意、提案したユニバーサルな等価静的風荷重法(USWL 法)の適用範囲を、低層建築物、高層建築物、大スパン屋根などに大幅に拡張し、これに関する研究が中国を中心として極めて活発になっており、日中両国だけでなく、世界各国の風荷重基規準類の合理化にもつながる。このような取り組みは、当該研究分野の進展と実践への適用の面で学術的な意義が極めて高い。また、USWLの種々の建築物における解析結果のデータベースを構築しウェブを通じて広く公開し、自由な利用を可能としていることは、大きな社会貢献である。

(2)交流成果の評価について

ハード系事業を中国が、ソフト系事業を日本がそれぞれ相互補完的に取り組む体制は、本事業の模範となる秀逸なものである。日中の査読付き共著論文は 11 件と質の高い論文が多数執筆され、共同研究による多くの成果が挙げられている。また、国際会議で特別セッションを共催し、本共同研究プロジェクトで実施した設計風速および USWL に関する研究成果を広く発信し、活発な情報交換を行って高い評価を得ている。

交流面では、日中相互の訪問等が十分に実施されている。また、中国人博士課程大学院生を日本で育て、それを中国研究教育機関に送り返す努力は、共同研究の持続的交流の懸け橋になるものとして高く評価できる。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

今後の展開が具体的で、波及が期待される。